



国際ロータリー 2019-2020 年度 前橋北ロータリークラブ会報



2019年 7月 8日 第1653回

会長 湯澤晃 幹事 廣木晴久
会場監督 大門副委員長

◇点鐘 会長
◇歌 それでこそロータリー

◇出席率 71.42 %
◇前々回出席率 -

◇お客様紹介 前橋中央ロータリークラブ



石川直美 ガバナー補佐
本日は第1回のガバナー補佐の訪問です。地区のテーマ「クラブイノベーション」クラブの在り方について。クラブ独自の発想で運営をよりよく進めていただく。

◇ニコニコBOX

- 田中伸志会員…先月、合同家庭集会で皆様にご来店いただきありがとうございました。また、いつでもお待ちしております。
- 齋藤慎佳会員…前年度1年間ニコニコBOXのご協力ありがとうございました。目標を達成し坊主にならずにすみました。
- 塚田憲利会員…昨日で長男の高校野球がおわりました。大澤さんの控え投手でしたが、思い出深い3年間になりました。
- 小和瀬健会員…誕生日祝ありがとうございます。こう見えて42才になりました。今後もよろしく願います。
- 田島宏明会員…誕生日祝ありがとうございます。

- 角張智之会員…湯澤会長、廣木幹事一年頑張ってください。
- 塩谷勝利会員…日本プロゴルフ選手権、石川遼が優勝し女子は資生堂アネッサレディースを渋谷ひな子がせいした。くしくも二人とも4打差を逆転しての優勝だ。アメリカでは松山英樹が不調ながら7位フィニッシュ、そして今夜ウィンブルドンのベスト8をかけて錦織が戦う。そして僕は嫁から朝飯の洗い物をしろと言われた。
- 小野靖浩会員…湯澤新年度おめでとうございます。
- 石垣昌之会員…初回例会から欠席してしまいました。すみません。
- 赤澤達之会員…新年度を祝して。湯澤会長さん他の役員の皆様頑張ってください。
- 廣山武雄会員…湯澤会長、廣木幹事をリーダーとする前橋北RCが令和元年元気で明るい活動ができますように！
- 石川直美ガバナー補佐…今年1年ガバナー補佐として頑張りますのでよろしく願います

◇謝意表明

亦野高裕直前会長 パストプレジデント賞

國岡充朗直前幹事 パストセクレタリー賞



◇幹事報告 廣木幹事 持回り理事会報告

◇前年度幹事報告 國岡前幹事
持回り理事会報告

◇委員会報告

- ・R財団報告 川口R財団副委員長
今年度9月22日(日)開催の動物愛護ふれあいフェスティバルに地区補助金事業例会の件
- ・ゴルフ部、野球部 大島会員

◇会長の時間 「弁護士」

皆様、こんにちは。私の仕事は皆さんご存知の弁護士という仕事をしています。皆さんはどうしたら弁護士になれるのかご存知でしょうか？

普通、法学部大学の法学部を卒業して司法試験に合格してなります。今でもそれは基本的には変わっておりません。私、お恥ずかしい話なんですけど司法試験を始めたのが大学を卒業後になります。

1996,7年頃の話です。当時ちょうどバブルがはじけて5年近くが経ち就職氷河期の時代で就職ができなかったのが切っ掛けになりました。親のスネをかじって司法試験受けてみようと思いました。

私は法学部出身ではありません。いわゆる司法試験予備校に通い東京で試験を受けました。お恥ずかしい話ですが、司法試験の勉強を始めた頃は司法試験というのは弁護士になる為の試験だという風に思っていました。皆さん、当然ご承知だと思いますが裁判官、検察官にもなれます。私は全く知らないで試験を受けました。

当時は、大学の教養課程が終わってれば司法試験を受けられるという時代で、大学3年生から受けられる事になってました。私は一応、卒業していてももちろん受験資格はありました。司法試験は春から秋にかけて3回くらい試験があります。

その試験を3回クリアして司法試験合格というこ

司法試験合格後には司法修習という期間があります。これは弁護士、裁判官、検察官になる前に実際の実務を経験する為、その実務の期間が1年～1年半設けられました。したがって私の時には、早い人だと大学3年で受かって大学卒業するのはともかくとして、その後司法修習を1年とか2年とか受けて、22、3歳で弁護士資格を取ってしまうという人もいました。その後は制度改革で大学を卒業し、最低でも22歳で、更に2年、24歳までは強制されています。

最終的に弁護士になれるのは26歳とかです。実は若い優秀な弁護士を沢山生み出したいという司法制度改革なのに結局26とか27にならないと弁護士になれないという事になり、よく分からない制度改革になってしまいました。

当時、大学は文科省の管轄なので、文科省も大学も喜んで、ものすごいロースクールいっぱい作った結果、合格率が下がりました。当初6割～7割合格させようと思っていたのに実は3割4割の合格率になりこの業界に入りたいという人が減ってしまいました。要は社会人も積極的に取ろうという話が実質的に出来なくなり、司法制度改革の目的がうまく結果に繋がらなくなりました。合格者の数も政府は毎年3,000人って言ってたのが1,500人だけとなりました。しかも、いろいろ規制緩和で弁護士業界は今、私が弁護士になった当時の登録者数は約120名だったのが、今は群馬には弁護士が2倍以上の290人を超えているという状況です。

とになります。もちろん毎年毎年、最初の試験から3番目の試験までを受けるということになります。

当時の良かった点は申し上げた通り大学の教養課程が終わってれば受験資格がある。しかもその年の試験に受ければ晴れて弁護士の道が開ける状況で、一発勝負ということになります。

したがって昔からなかなか合格できない方、10年20年かかっても、合格できない方もいらっしゃいました。当時、私が受験した頃は受験者数が約3万人。

最終合格者が1,000人です。約100人いて3人受かるか受からないかという試験になります。

戸所先生の時代は実は500人という時代でした。そして今は毎年1,000人を超え合格者が1,500人。私が受けたちょうど2000年前後の話で司法制度改革というのが進んでいました。とにかく弁護士の数が足りないので弁護士に依頼する時にお金がかかることから、経済界からの要請により規制緩和で弁護士数を増やしました。私の時代は一発勝負だったのが、ロースクールというのができ大学を卒業した後にロースクールに行き、そして司法試験を受けるという制度に変わりました。その結果、4年大学行って更にロースクールに2年行くということになり、最低でも6年かかることになりました。←

報酬規定というのがありましたが日弁連の独禁法に違反するという事でなくなり自由化されました。その結果、結構悪質な弁護士が増えてきました。私が聞いた噂話では高崎の弁護士事務所が高崎の裁判所に裁判に行くのに、それだけで日当5～6万円。無茶苦茶な弁護士もいるという噂も聞いています。司法制度改革の結果、結構混乱しております。

そうはいつでもお客様からしてみるとうちの業界、弁護士ってどうゆう人達なのか分からないものですから悪質な弁護士にお金だけ取られる事も増えてきている現状です。悲しいのは私みたいに親のスネをかじり昔の制度で司法試験に受ければ一発合格できれば、弁護士とかになれましたが、ロースクールに行かなければならないのでお金がかかります。つまりお金持ちのご子息しか出来ない、そういう資格になってしまったっていうのが残念な所です。皆さん方の中に興味がある方がいらっしゃれば、いろいろ細かい事がお伝えできると思います。弁護士が増えた結果、競争が激しくなって、どうしようもない弁護士が淘汰されていくとは思いますが、まだそこまで追い付いていないというのが現状です。司法試験の制度も含めて説明させて頂きました。もし何かありましたら言って頂ければ例えば皆さんのお子さん達とかお孫さん達が弁護士ってどうなんだ？っていう時にはお話をさせて頂ければという風に思っておりますのでよろしくお願ひします。